



全国通信三田会報

第102号 2016年(平成28年)2月10日 発行

発行 全国通信三田会 会報は正会員の情報紙です。
 発行人 山岡 恒夫 *年会費 2千円
 TEL 029-875-0533 *郵便振替番号
 00120-2-18806
 事務所 〒300-1282 茨城県牛久市 複数年度お支払いの意向を
 井ノ岡町 2117 山岡恒夫 お持ちの方も会計処理できる
 ようになりました。
 編集人 幸治 典子 *会への連絡は8面の連絡先へ

第一〇二号

作家・坂上弘氏の随想が日本経済新聞文化欄に掲載されました。私たち通信教育課程の学生を受け入れる大学側の“夏の陣”を描いています。坂上先生の許可を得て、ご紹介させていただきます。



さかがみ ひろし
 作家。1936年東京生まれ。著書に「優しい碇泊地」「田園風景」(野間文芸賞)など。慶應義塾大学出版会会長、日本近代文学館理事長。

向学の夏

8月について筆をとるとき眼の前でてくるのは、終戦の日の高く晴れた夏空だ。玉音放送はよくきこえなかったが、青空が青空そのものになったと10歳の心は思った。当時私は母親の里の埼玉県高麗村(現日高市)に疎開していた。近くに駐留する高萩航空隊が農家を宿舎に使っていた。その広い庭に兵隊の一人がならび部隊長が縁側に立って玉音放送をきいた。このあとで戦争は終わった、と教えられ、私は畠の中を走りまわり、畝をけとばしてとび上ったりした。もう死ぬことはない、と子供の知恵で思い、よろこんだ。兵隊の一人からきいた話で、これからは殺人光線を防ぐために白い布が要るぞといわれていたからだ。しかしいまの私は、70年前の夏を忘れがちだ。8月に大学に来て勉強をする人たちへの応援で頭が一杯だからだ。“夏期スクーリング”とよぶ、通信教育課程を続けながら大学で単位を得るためにキャンパスにきて講義や体育の授業に参加する社会人学生たちへの支援だ。暑さに負けずに頑張ってくださいよう願っている。といっても、私は教える立場ではなく、この学びの“夏の陣”を準備する大学の側と一緒にしてお手伝いをする立場にいる。

通信教育課程で学ぶ社会人学生には、正科生と、教職課程科目履修生がいて、スクーリングによって教員とともに学び、単位をとれるようになってきている。この夏の陣のために、大学としては、履修の申込みや遠くからの学生の滞在方法に綿密な準備がある。社会人を中心に幅広い年齢層がキャンパスに集い、海外駐在になった学生が休暇をとって参加するケースもある。生徒数カ月から小学低学年までのお子さんづれの学

生たちには、保育体制も必要である。それには、専門業者もいるが、大学公認でお子さんの世話をする母親学生会のような支援団体も活動している。この20年間ほど私は母校の通信教育課程を支える大学出版会の手伝いを引受けてきているので、8月の関心事は、もっぱらこのスクーリングの成否一点に絞られるといえてよい。しかし大学教育の目的は、講義を受ける学生が成長するだけでなく、教える教員の側にも、学生の目的を助けつつ学ぶという“半学半教”のあり方がある。いやそれが教育そのものの姿であり、このスクーリングの教室にもよくあらわれている。戦後すぐ、大学で通信教育課程がどのようなものとして開始したかは、興味深い。GHQによって実施された教育制度の改革の一環として社会人教育が示唆され、それを先駆的にふみきったのが法政大学と慶應義塾大学であり、その後、中央大学、日本大学等が続いた。いま私のお世話をしている母校の大学出版会は、昭和22年、この通信教育課程を立ち上げるために卒業生が力を合わせて学外に株式会社としてつくって発足した。私は、想像してみる。「学問のすゝめ」や「文明論之概略」のような福澤本や、福澤の高弟がつくり上げた「小学地理問答」や「童子論」のような教科書が全国に届けられ教育が盛んになった明治の初めと、太平洋戦争後の社会人学生向け通信教育課程に抱いたビジョンは、大学の当事者たちにとっては、その気力・気品において、似ている。こうして昭和23年にスタートした社会人向け通信教育課程の教授陣には、西脇順三郎や井筒俊彦ら著名な学者が参加している。その頃の教科書の例には、現在でも卓越したロシア文学論と評価される井筒俊彦の「露西亞文学」がある。一体どのようなレポート論文の課題が出

たのだろうか。のぞいてみると、第一章「露西亞文学の性格」の終わったところに、研究課題として載せている。「露西亞文学は何故ひとに陰鬱な印象を与えるのか」「露西亞文学はどのような意味で哲学的人間学なのか」など、こんな難しい課題を出していたことには驚かされる。これらの課題にどのような解答がよせられたかはわからないが、井筒がその採点をしたことを考えると興味深い。当時の教員たちがよりよいものを学生たちに提供しようとして一所懸命になっていたことがうかがえる。こうしてスタートした戦後の通信教育の内容は、容赦なく、新鮮だったのではないか。戦後社会で、働きながら学ぶ人々のエネルギーに諸大学の通信教育はどれほど大きな力を与えたことだろう。学生と教員が直接向き合うスクーリングという学びの場には、大きな活力と伝達力があつたように思われる。社会人学生が交流し、学び方を知る。学生側だけではない。「三色旗」という小雑誌に載っている毎年の“夏期スクーリングを終えて”という教員側のどの感想にも、最初は教室で社会人学生たちの静かな緊張を感じとり、夏の終りには、暑さの中で最後までやりとげた彼等の満足感がうれしかったと、“半学半教”とし語られている。このスクーリング授業を名誉教授になってからも続け通算30年間出講してきたドイツ文学者の宮下啓三さんは、晩年、一週間連続講義の末の試験が終る日、いつも私を呼んで、彼のクラスに紹介してくれた。それは、作家の話ばかりしてきたが、最後に本物の作家を紹介する、という楽しい提案だった。講義の準備工夫と社会人学生へのねぎらいが、一緒になる、真夏の稀有の一時だったのではないか。—日本経済新聞(2015年8月9日付)掲載—

第21回 中四国通信三田会総会のご案内

香川通信三田会 会長 宮北 薫
 下記の通り、表記の会合を開く予定です。開催地の高松市は、香川県の県都として、八十八カ寺巡りでも知られた四国の玄関口として発展した町で、瀬戸内海に面した風光明媚にして、海の幸山の幸にも恵まれた土地柄です。海の神様として知られる金刀比羅さんのあるところ、源平合戦で有名な屋島や天下の名園栗林公園などの観光スポットも豊富です。是非、ご来臨のほどをお願い申し上げます。

記
 日時 平成28年4月24日(日) 午後10時から 受付9時半から
 場所 高松市サンポート2番1号 サンポートホール61会議室
 参加費 3000円
 会談次第 開会・歓迎の言葉 塾歌斉唱 来賓祝辞 来賓紹介 慶應義塾の近況 記念撮影 昼食 出席者の自己紹介
 講演 開古の夢呼び起こす「屋島の城」 瀬戸の都のタイムカプセル
 講師 多田 佳智子(543文)
 記念品贈呈 次期開催県引継 代表挨拶 若き血斉唱
 閉会 3時ごろの予定。
 なお、前日23日(土)午後6時から前夜祭を予定しております。
 会場は居酒屋「柚柚(ゆうゆう)」会費4000円
 連絡先(宮北) 080-2980-8342 JZT05211@nifty.com

「全国通信三田会・通信教育課程卒業生1万5千人 達成記念祝賀会」並びに「記念講演会」の開催 (お知らせ)

全国通信三田会秋期幹事会で次の通り基本的な実施内容が承認されました。

1. 記念講演会
 日時 2016年10月15日(土) 15:00~16:30
 場所 慶應義塾大学三田キャンパス「北館ホール」
 講師 坂上 弘君 (慶應義塾大学出版会株式会社代表取締役会長)
 演題 慶應通信70年の歩み一向学の夏一(仮題)
 参加 全国各地域から卒業生約150名(予定)
2. 記念祝賀会
 日時 2016年10月15日(土) 17:30~19:30
 場所 慶應大学三田キャンパス南館4階「ザ・カフェテリア」
 参加 全国各地域から卒業生約150名(予定)

題記記念祝賀会ならびに記念講演会の具体的なお案内は全国通信三田会報103号(平成28年7月発行予定)においてお知らせしますので、会員各位(塾生を含む)のご出席をお願いします。

文責：全国通信三田会 企画部長 出口 常雄

鈴木仁元会長ご永眠



(野口雄一郎 平9経)
 9月16日 鈴木仁元会長ご永眠のメー
 連絡が突然入ってきま

尊敬する先輩の訃報に驚き、9月20日しめやかに行われたお通夜に参列させていただきました。参列の後の隣の部屋で故人をしのぶ遺品として、長く続けられたお仕事の映画館管理をしのぶ西部劇映画など当時の数々の貴重な映画のポスターとともに三色旗と鈴木様の手書きの卒論が置かれているのを発見しました。大変驚きました。いかに鈴木様にとつて慶應義塾が大事であったかを改めて知らされました。私はたまたまオイルダラーの時代に働き盛りを迎えていたこともあり長く海外プロジェクト勤務をしていました。その時代に慶應義塾大学通信教育課程を知り入学しました。たまたまオイルダラー景気も下火になった時期に名古屋単身赴任となり再入学手続きをとり、その後4年間で何とか卒業できました。卒業と同時に東京勤務にもどり、東京通信三田会に入会しました。その時の会長が

鈴木会長でした。役員会があるのでも三田の通信教育部会議室に来るよう言われました。その時の会議の雰囲気は私が予想していた活発な活動内容を表すものとは違いました。「投稿が全くなく会報が発行できない。投稿がなければ葉書1枚の簡単な内容でもいいのではないか」そのような鈴木会長のお話でした。現在の充実した会報発行からは想像できない状況でした。私は編集部の手伝いをするように言われ、今日の東京通信三田会の繁栄を築かれた本田様、大土様などにお会いしました。会の活動の中心を表すのは会報の充実だと思いつつ自分なりに出来る範囲でお手伝いをしました。鈴木会長には映画の話というタイトルで連続投稿をいただき大変助かりました。内容は映画館勤務の裏話、苦労話を盛り込んだものでした。今のようなシネマコンプレックスではなく、フィルム映写の時代で、フィルムが映写の途中で切れてそれを修理している間は映写が中断したり、最悪はフィルムが発火して火災になったり、今の時代では想像もつかない映画全盛時代の懐かしいお話でした。また塾員講演会では、新しく始められたマンション管理の苦労話を講演いただきました。葬儀の席に出ることも多くなりましたが、卒業論文が飾ってあつた葬儀は初めてでした。しかもワープロ書きの時代と異なり、一字一きれいな手書きで書かれた魂の入った卒論には敬服するばかりです。葬儀の席に飾ってあつた、三色旗、映画館をテーマとした卒業論文には鈴木元会長の並々ならぬ意気込みと魂があつたことを知りあらためて素晴らしい先輩を知りえた幸せを感じました。 合掌

会への連絡は下記へ
 下記のようにご連絡くださるようお願いいたします。
 ◎会へのご意見など
 事務所へは郵送のみでお願いします。緊急の用件の場合
 会長へ Tel 029-875-0533
 山岡方 (夜間7時~11時まで)
 ◎住所・姓名変更 退会 逝去者など
 幸治方 Fax 03-3924-1626
 (住所変更は下記塾員センターへご一報！)
<https://www.wdc01.adst.keio.ac.jp/kj/jukuin/mailform.html>
 ◎新入会申し込み、会計関係(文書で)
 〒340-0003 埼玉県草加市稲荷 2-5-2 大川成一方
 ◎「全国通信三田会報」原稿送り先
 〒178-0061 練馬区大泉学園町1-11-24 幸治典子方
 Tel & Fax 03-3924-1626
 Eメール kouchan@finesis.net
 次号原稿締め切り 平成28年5月末日 原稿字数 800字位

独学力一慶應通信から東大教授へ 柳川 範之 (昭63経卒)



あり、限界がある。通信教育のいいところは、自分のペースで学べる。しかし生真面目に貫徹しようとしないうこと。挫折してもいいと思う。これが長続きの秘訣なのだ。IT産業はスピード化していて、他の産業にも参入している。新しい能力を身に付けなければならない。その為には生涯学習が今後一層重要になってくる。

日本は基本的に「単線型」社会だと思うが、もう少し「複線型」の仕組みを作らなくては行けない。多様な学び方、働き方ができる社会に変えていこうと思う。働き方に関する法律や、大学・教育機関に関する制度を変えていかなければならない。と論説を書いたり、政府の委員会で話したりしている。

◎講演はこれから勉強する塾生に向けての、先輩としての経験からのアドバイスの内容でした。特に長距離走なので時々休むのが大事だと。私たち通信出身の柳川さんに大いに今後の活躍を期待したい。

◆◆チャンスをつかんだ◆◆

最初は公認会計士になろうと思っていたが、通信の勉強中に経済学に興味を覚え経済の分かる英語の本と日本語の本を読んで何とか解ってきた。大学卒業後、シンガポールにいて、東大大学院に行こうと考えていた。公認会計士の予備校TAC(タック)のテキストを送ってもらっていたが、これをやめようと思い、係りの人に相談したところ、東大の大学院生を紹介してくれた。そこで授業を受けた方が良いとすすめられ、東大大学院の授業をもぐりて受けた。

ある時、伊藤元重先生の授業を聴いて、背伸びをして質問に行った。そして、「うちのゼミにこないか」と声をかけられた。そして東大大学院へ入った。

◆◆40歳からの人生を考える◆◆

長寿社会となり20歳位から働き始め、50年以上も働くとなると、どこかの地点で先を見据えた勉強をして、一度エネルギーを蓄える必要がある。昔に比べれば、人生を二回生きることになる。学生の時の受験勉強は短距離走だが、大人の勉強法は長距離走である。そして長距離走のポイントは「楽しみながら勉強すること」にある。学ぶことの楽しさや、知識を吸収して能力をみにつけることの楽しさを味わう。景色を楽しみながら走る、大人には大人の勉強の仕方がある。学校の勉強には期間が

慶應義塾大学通信教育課程のホームページを開くと、柳川範之さんが出てきます。今、マスコミでも注目の人“独学力一慶應通信から東大教授へ”として紹介されています。昨年11月に千葉慶友会が柳川さんを講師に招き、講演をお願いしました。私も一緒に講演を拝聴し、要旨をまとめました。(幸治 典子・記)

「独学の進めと40歳からの人生を考える」

◆◆独学力がついた◆◆

お父さんの仕事の関係で小学校はシンガポール、中学校は日本、高校はブラジルで過ごした。

ブラジルの高校には、日本人学校がないので教科書や本を大量に買い込んで一人で勉強した。帰国して大検に合格し、慶應大学通信課程の経済学部に入學した。いきなりあのテキストが送られて来て、全く勉強する気が起こらなかった。気を取り直しどうにか読み込もうとした。

その頃はシンガポールにいて参考文献も、ネットの情報もないなかでレポートをまとめなければならなかった。とりえず自分の言葉でまとめ、テキストの文章を広げ、書くトレーニングをした。スクーリングは毎年夏に帰国して受けた。その時に図書館で参考文献を一年分コピーして持ち帰った。この勉強方法が結果的に一番力がついた。

特別寄稿

独立自尊の人

迫田 勲

(昭43法学部政治学科卒)

慶應義塾に学び、塾員として、改めて建学の精神「独立自尊」の人について考えてみたい。

福澤先生は終身要領で独立自尊の人を「心身の独立を全うし自ら其身を尊重して人たるの品位を辱めざるもの、之を独立自尊の人」と意味づけられている。

- ① 単に心身の独立だけでなく、それを全うすること
- ② 自分を尊重すること
- ③ 人たるの品位を恥かしめざるもの

独立自尊の人というのは、精神的にも経済的にも独立した人になれ、自分は世界で唯一の人間、だから自分を大切に尊重せよ、自分を大切に尊重することは、他人にもそうしなければならぬ、だから人としての品位を保て、という深い哲学的意味が含まれている、と思う。アメリカやヨーロッパを歴訪、自由平



等な空気に触れ、人に上下はなく、人間としての平等、尊厳性、という基本的な人間観が「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」と言えり」と、述べられたのである。人は皆固有の基本的な権利を有し、尊厳で平等である。だから土農工商や家柄という身分制度をおかしいと思ひ、門閥制度は親の仇でござる、と述べられた。

更に、個人の独立が天下国家の独立になると「身も独立し、家も独立し天下国家も独立すべきなり」(学問のすすめ)と、個人の独立の重要性を訴え、我が国の近代国家としての体制と日本人の精神的独立に大きく影響を与え、貢献された。こうした我が国の文明開化を切り拓かれた先生の先見の明と勇氣に驚嘆し、改めて尊敬の念を深くしている。福澤先生に出会い(思いに触れ)、慶應義塾に学んだことに喜びと感謝、誇りを持ち、塾員となった今、何をしてお返ししなければならぬか、の思いを強くしている。

こうした思いや財産はあの世にもって行けないだろう。今この世でできる間に返済清算しておきたい。自分は何のために生まれてきたか、自分の使命は何か、改めて考え

第23回東海地区合同通信三田会 家康公は実は痩せていたかも!? 久能山東照宮へお参り7/4・5

皆さんは、「家康」と聞いてどのようなイメージをお持ちでしょうか? 私もお家の近くにある駿府公園の家康公像の幅が良く、とても温和な感じの方と、長い間思っていました。

しかし、考えてみると現存されている三方原の戦いで敗れて描かれた「しかみ像」の痩せこけた印象と、あまりに違うことにお気づ

参加者の皆さん



5日には、家康没後四百年記念事業ということで、希望された参加者の皆さんと一緒に、久能山東照宮へお参りしてきました。

小雨煙る中でしたが、全国でも日光とここにしかない権現造りのお社の東照宮(国宝)は、雨の中ということもあつたかと思いますが、落ち着いた中にもとても荘厳な雰囲気、感動しました。

機会がございましたら、日光だけで結構と言わずに、ぜひ、久能山東照宮へもお参りください。



会長紹介

宮城通信三田会 末永利一郎会長



まず初めに、私達の宮城通信三田会について紹介させていただきます。現在の会員は三十三名で、主な活動は、春の例会、秋の総会です。

春の例会は、全国通信三田会春の総会と兼ね、日本三景の松島、瑞巖寺を会場に行われました。全国から多くの皆様に参加して頂き、感謝申し上げます。平成二十七年の春の例会は、五月五日に末永利一郎会長の住む隣町南三陸町にある「慶應の森・山小屋」にて開催されました。好天にも恵まれ、大変有意義な例会

となりました。全国の皆様も是非「慶應の森・山小屋」にいらしてください。

次に、末永利一郎会長についてご紹介させていただきます。末永会長は、親戚で遠く宮城の地から上京して福澤諭吉先生に直接教わった方を始めとして、身近に慶應義塾で学ばれた方が多い事と、家業である呉服店、農業、各種学校経営から関連性のある企業経営経済学、農業経済学を学んでみたいとの思いで、慶應義塾大学通信教育課程経済学部に入學したそうです。

入学後スクーリングを四年で終え、単位取得、就職課程、科目別履修と挑まれ、家業が忙しいにも拘らず、昭和四十六年経済学部を卒業されました。同時に高等学校教諭二級普通免許状と中学校教諭一級免許状を取得されました。卒業論文は「過疎化と小零細企業」をテーマに、中小企業論の伊東岱吉教授の御指導を受けられました。

卒業された昭和四十六年は宮城通信三田会が創立した年であり、会員、役員として先輩の皆様からいろいろと親しくさせて頂いたそうです。そして慶應112年三田会、気仙沼

三田会、福澤育林友の会に入会して様々な方面で活躍されております。

末永会長の長男も地元高校から慶應義塾大学に現役で入学、商学部を卒業されたそうです。慶應義塾とは特別な縁や繋がりを感じているそうです。

現在は、農業を営まれ、心身に「陽」を入れながら、神社巡礼、古寺巡行、温泉歩き宿泊、コボスタ宮城にプロ野球楽天の試合観戦等を楽しんでいらつしやいます。

最後に、末永会長から全国の皆様へメッセージを頂きましたので、ご紹介させていただきます。

「先の東日本大震災でも特に被害の大きかった気仙沼市に私の居住地があります。当地の皆さまはお互いに励まし合い助け合って頑張っております。私も微力ながら自分なりに出来るかぎり、協力しながら日々を送っています。全国の皆様からの御支援で復興の道を辿っておりますので感謝御礼を申し上げます。」

井古田さんが慶應雑志会に度々小説を掲載し、その後、エッセイ会に入り、コッコと書き続け、一冊の本にまとめた。どこにでもある家族や動物や花などを題材に細かく観察して作品を作り上げています。その家族や隣人の心の動きが丁寧に綴られていて、心温まります。中でも、志賀直哉の愛読者である作者が、作品に出てくる緑の地を歩く様子は、青春の頃のような濃密な時だったことでしょうか。雑志会の仲間として楽しく読ませていただきました。(紹介者・幸治典子)



本の紹介 『三代目のロン』 井古田千枝子(平12文著) 関東図書

宮城通信三田会 事務局 小林 伸・記

千葉散策シリーズ16 千葉通信三田会 新日鉄住金君津製鉄所を見学



第四高炉をバックに

平成27年11月16日、新日鉄住金(株)君津製鉄所の工場見学を、参加者7名のもと午後(1時30分〜3時30分)で行いました。

すっきりと晴れた秋の日の午後、JR君津駅に12時30分に集合し、駅から市内循環バスで君津製鉄所へ向かいました。20分ほどで本館に到着。午後6時の見学予定者約30人が集まったところで、会議室

にて君津製鉄所の概要及び工場見学の行程等の説明を受けました。

君津製鉄所は、敷地1、216万㎡(東京ドーム220個分)、粗鋼生産9、628千t(平成26年)、従業員3、550名(平成27年)で、設備、生産量ともに国内トップクラスの規模であることなど、一通りの説明を受けた後、マイクロバスに乗り工場見学へ。

まず、プラスチックリサイクル設備を見学。プラスチックごみを製鉄所のコークス炉を利用してリサイクルする技術で、細かくしたプラスチック

くごみと石炭を混ぜてコークス炉に入れ、蒸し焼きにし、炭化水素油、コークス炉ガス、コークスなどを回収して再利用するというもの。プラスチックごみの処理工程はすべてコンペアーで繋がれ、自動化されていました。プラスチックごみは、ほぼ100%有効利用しているとのことでした。

次に第四高炉に向かいました。高炉は鉄鉱石から溶けた鉄を取り出す設備で、君津製鉄所の第四高炉は世界最大規模の高炉とのこと。遠く離れた場所から見る黒褐色の高炉は巨大なモンスターのように

高々と建っていました。ここでしばらく高炉を眺めたり、高炉の写真を撮ったりしました。

最後に圧延工程を見学しました。ここでは圧延機で鋼片を薄く、長くのぼし、薄板、厚板、鋼管、線材などの鋼材を作っているところ。自動車用などの薄板を作る圧延機はラインの長さが1、000mもあり、鋼片は最大時速90kmの早さで流れるとのこと。

連続的に圧延される真っ赤に熱せられた鋼片の高熱がじかに伝わって来て、迫力ある製鉄所の雰囲気を感じました。

見学終了後、会議室にて質疑応答の時間があり、当塾員から活発な質疑が為されました。広い敷地内では貨車が走り、トラックが動いていて、製鉄所の設備はすべて自動化されているとのこと、見学中に作業員の姿をほとんど見る事はありませんでした。

世界に冠たる製鉄技術を持ち、経済発展の一翼を担う新日鉄住金君津製鉄所のダイナミックな工場を塾員と見学することが出来、楽しい秋の一日となりました。

(小菅登・記)

から「奈良太鼓」の提供もあり、会もおおいに盛り上がりを見せ、制限時間を設けた自己紹介も、オーバーするほどであった。二次会も特別なお部屋の提供を頂き話に花が咲いた。

翌日は、チャーターしたマイクロバスで能登食祭市場で買い物、昼食後、マイクロバスで七尾駅に向かわれる皆さんをお見送りし、楽しい「加賀屋に集う会」は終了した。

この会を開催に当たり、小田社長より物心両面で破格の「おもてなし」を受け、参加者皆さん大満足でお帰りになったことと思う。卒業率パーセントの壁を乗り越えて卒業された皆さんを、日本一の旅館加賀屋で、この様な会をお世話ができましたことを誇りに思っています。(徳光 重希・記)

日本一の旅館 11/17~18 「加賀屋に集う会」

昨年5月、金沢の全国通信三田会春期幹事で小田與之彦加賀屋社長(塾員)の講演会が大変好評であったので、一度日本一の旅館加賀屋さんに集まりましようと言うことになって、昨年11月17日~18日に全国通信三田会有志で「加賀屋に集う会」を開催した。

当日は、全国から24名の方々が参加頂き、最初は当会会員の登美鈴江君(文 哲学科卒 金沢大学大学院自然科学研究科博士課程修了 現在 七尾市少年科学館館長)の「自然に学ぶものづくり」に興味津々と題して、の講演があった。参加者の皆さんまさに興味津々と



で聴き入った。引き続き塾歌斉唱から懇親会が行われた。お互い初対面の方も多かったが、そこは同じ慶應通信で学んだ皆さんでしたので、すぐ打ち解けられ和やかな雰囲気になった。懇親会には当館

神奈川通信三田会の平成27年度総会 & 記念講演会 総務部長 辻 昭彦・記

平成27年度総会・記念講演会が、11月14日(土)13時から日吉第6校舎1階J611教室において開催された。当日は11時半頃から看板掲示・受付準備等が始まり、総会・記念講演会ならびに懇親会などがすべて円滑に実施された。総会において、提案された案件はすべて承認され閉会。10月初旬の予備役員会から総会までの準備作業・会報の発行・発送作業など、会員の皆さまにはそれぞれお忙しい事情の中で、総会成功に向けてご尽力をいただきありがとうございました!

総会に引き続き、14時45分過ぎからご来賓と総会参加者全員で、小雨のため室内で、記念写真の撮影を実施。15時から演題:「緑と絆と助け合い-被災地支援と2025年問題の話」で松岡誠治医師(塾員 横浜青葉三田会幹事)のご講演をいただいた。

記念講演会に続き、慶應義塾塾員センター鶴崎元章部長から、「慶應義塾の現状」についてご講演をいただいた。17時15分からは、日吉学生食堂2F「さぼてんエクスプレス」において懇親会を実施。

記念講演をしていただいた松岡医師、塾員センターの鶴崎部長が引き続きご臨席。来賓として、全国通信三田会から山岡会長、星野広報部副部長、埼玉通信三田会から大川会長がご出席された。山岡会長の乾杯のご発声の後、懇親会参加者一同は、なごやかに歓談のひと時を過ごすことができた。



Q 西山さんの経歴について教えてください。

A 私は、高校卒業後、フリーのカメラマンに従事しました。フリーのカメラマンを続けながら、5年がかりで昭和42年3月、慶應大学通信課程を卒業しました。その後、産経新聞年鑑局に入社、同社事業部長を務めました。その後、写真クラブ

Q 企画展開催のきっかけは?

A 私は北区に住んでいます。北区は都電が残存し今もなお都電に親しむ人が大勢います。昭和42年12月10日午前0時に、通称都電銀座線が廃止されました。私は、この廃止に関心を寄せていました。私は、年頭から一年にわたり廃止路線の



北区飛鳥山博物館の展示前で

みなならず、さまざまな角度から都電を記録し続け、最終日には銀座に終日滞在し都電にレンズを向けました。飛鳥山博物館は、昔を知らない新たな世代が増える中で、企画展で昭和42年という年を改めて振り返り、都電の消長について私が撮影した写真を通じて感じてみたいと、私が博物館に提供した資料を整理し、企画展として紹介することにしました。

あるカメラマンが見届けた都電ラストラン

西山 英明さん (昭42法)

などの会長を務めました。20代を中心に、大都会東京の諸相を捉えた「東京の断面図」、「壁の中の街」などの一連のきわめて個人的な作品を発表しました。社会派カメラマンとして、現実を起こりつつある社会現象に目を向けました。都電銀座線の廃止の時には、年頭から約一年かけて都内各地の路線を撮影し、廃止当日まで都電の姿を記録にとどめました。

Q 写真で伝えたいと思うものは何ですか?

A 私は本来写真の本質は記録にあると思っています。しかし、記録性の中にも、各カメラマン独自の感性が現れてくるところが、そのカメラマンのオリジナル作品となり、それが現れていなければ、作品としての面白みはないと思っています。

私は社会派カメラマンであつたのですが、自分自身の表現に拘った作品創りも併せて行っていました。それは、自分自身の内から湧き出

て来るイメージを一枚の写真で表現したいの思いからです。そのため、「壁の中の街」シリーズでは、繁華街のビルの外壁に反射した風景を写し込むといった特殊な撮影方法を用いました。また、一枚写真では表現できないと思った場合には、何枚かの写真を背景となる写真の上に貼り付けて複写したり(コラーージュ)、「東京の断面図」シリーズでは、暗室内で複数のネガフィルムを印刷紙の上に直焼きして、自分のイメージを写真に定着させていきました。

記録写真もそうですが、どうしても自分の欲するイメージを写真化したいと思って悪戦苦闘していたものが周囲で評価され、今となっては大変良い思い出となっています。

Q 慶應通信時代のことをお聞かせください。

A 卒業論文の指導教授は、田中実教授でした。一番の思い出は、夏の昼間のスクーリングの暑さです。昔は、クーラーがなく、スーツ姿の教員のネクタイは、汗でびしょぬれとなっていました。通信教育で、寸暇を惜しむ力がつき強するとういう力がつきました。通信教育卒業後も、働いている間、ずっと、毎朝40分学習しました。夜は、飲みに行ったりして勉強できないから

わか町紹介 徳島県吉野川市鴨島町

かつて 調節 京都の久保蔵さんに「君は古い京言葉を使いますね」と言われた。私が「オマハン」と言ったことに起因する。今では使いません。試みに店の娘に「おまはん」と言ったが、通じなかった。「オマハン」とは英語のYouである。つまり「おまえさん」のことで、「おまえ」を「おま」、「さん」を「はん」と言い換えればよい。私の故郷神山町では古い京ことばを使っている。例えば三本川の川をコウと発音する。黒川をクロゴウ、中津川をナカツコウ、川虫をゴウムシ、寝ることをゲシナルと祖母が言っていたが、漢字で書けば御臥ナルとなる。

さて、吉野川市は平成の合併で麻植郡鴨島町、川島町、山川町、美郷村3町1村が合併し吉野川市となった。鴨島町は日本三大暴れん坊河川吉野川が東に流れる地にある。かつて、阿波藍と製糸で栄えたわか町はそれらの衰退によりかつての活力は消えたと化した。藍商人の屋敷や絹糸工場跡地に昔の面影を残しており、文化意識は高い。吉野川には善入寺島と言われる日本最大の川中島がある。この島は東西6km余南北1.2kmあり、かつて、有人の島であった。大正期に住民は強制移転され吉野川の洪水



善入寺島

対策の遊水地となったが、耕作は認められている。善入寺島の耕作地は洪水時に運ばれてきた肥沃できめ細かな土の恩恵を受け、大根、ニンジン、ゴボウなどの根菜類に適しており、葉物野菜のレタス、白菜、キャベツなどの栽培も盛んである。徳島自動車道土成ICに近い関係で、収穫した野菜は本四連絡橋淡路明石ルートを経由京阪神へ陸送、輸送時間が短縮され鮮度のよい野菜を供給している。野菜菜の原料供給地であり、越後湯沢に送られ、かの地で加工され野菜菜として販売されている。

善入寺島は四国巡礼10番札所切幡寺から11番札所藤井寺への遍路道がある。春には満開の菜花を眺め、吉野川の流に架かる2本の潜水橋を渡りながら海拔1400メートルの高越山を仰ぎ見る。その道行は澄み切った空気と水と美しい稜線を眺められる日本の原風景である。

四国巡礼の歴史は古い。私は四国遍路は現在のネットワーク社会の元祖であると思っている。八十八カ所の札所はサーバーであり遍路が札所を繋ぐ通信網である。わか町鴨島町には11番札所藤井寺があり12番札所焼山寺に向かう遍路道は遍路こ

(昭44経 小松 敏行)

2015年 全国通信三田会 秋期幹事会 10月24日(土) 13:00~14:45 三田キャンパス 南校舎4階445教室

I 全国通信三田会秋期幹事会

- ・日時：2015年10月24日(土)13時~14:45(受付12:30)
・場所：慶應義塾大学三田キャンパス南校舎4階445教室
高橋豊副会長司会により開会。
一議事に先立ち、故鈴木仁君ほかを悼み全員により黙禱一
最初に下記の通り、議長ならびに書記が選出された。
・議長：瀬戸田副会長
・書記：星野広報部副部長、須賀総務部副部長
次に山木総務部副部長より下記の報告があり、幹事会成立の
宣言がなされた。
出席幹事53人(46.9%)、欠席(委任状有)38人(33.6%)合せて
80.5%(なお、届出無22人(19.5%)で前回の春期幹事会より9
人多かった。)

II 議事次第

- 1. 山岡会長ご挨拶 KTM資料の説明ならびに子供向けの福澤
先生の本の一節を紹介。「必ずしも自分の意見が正しいと
は限らない」
2. 加納名誉会長ご挨拶 15,000人以上の卒業生を新たに迎え
たい。
3. 出席顧問紹介 (本間、伏屋、八木、田中顧問、遅れて木村
顧問)
4. 各部報告 (各資料参照)

<特記事項>

- ・企画部：主として、15,000人達成記念祝賀会について、現状
を報告した。(資料有2-1)
・広報部：102号の原稿締め切り12月末、地域三田会に協力依
頼有り。(資料有2-3)
・渉外部：資料により説明。(資料有2-4)
・塾員情報部：倒産した名簿委託業者の元従業員より名簿引継
は良好に進んでいる。
・情報システム部：HPは順調、掲示板を活用している。
・総務部：新役員人事は後述。茨城の高木・岡山の明石・三重
の大河内の新顧問を紹介。
地域の会長交代有り、秋田の進藤・三重の西村・岡山の大
森新会長。
愛媛は会長空席により森田連絡係となる。(資料有2-7)
・地域連絡部：(資料有2-8)
各地域の塾員激減、一つの県による通信三田会の存続は難
しい。
合同三田会の検討、または慶友会との連携による年3回の講
師派遣を活用する。
・東北地区：主に宮城の活動報告。
名簿の活用、連絡を取り15,000人達成記念祝賀会に参加要
請。
・北関東地区：北関東合同通信三田会(栃木9/27)他を報告。(資
料有2-8-3)
・東海地区：三重、静岡、岐阜、愛知の動向を報告。(資料有
2-8-7)
・北陸地区：下期「加賀屋に集う会」(11/17-18)開催予定。(資
料有2-8-8)
・中国地区：岡山、山陰、広島、山口の動向を報告。(資料有
2-8-9)
・九州 西地区：資料のみ。(資料有2-8-11)

5. 各地域三田会報告 (各資料参照)

- ・東京：12/25 BRB閉店に伴い、2/13 新年会を帝国ホテル内の
東京三田クラブに急ぎ変更。(資料有3-01)
池袋勤労福祉会館改修工事に伴い活動拠点を要見直し。三
田キャンパスも候補。

- ・茨城：2016年度春期幹事会が水戸で行われる予定。頑張りた
い。(資料有3-02)
・沖縄：欠席、資料のみ。(資料有3-03)
・埼玉：会報配布。1/9新年会。2/13総会(資料有3-05)
・神奈川：10/31 早慶交流会。11/14総会・記念講演会(日吉)。
12/12 忘年会(日吉「フアティラウンジ」)(資料有3-06)
・愛知：1/24 第26回愛知通信三田会総会・創立25周年記念祝
賀会名古屋市中区「中日パレス」(資料有3-08)
・札幌：1/30 慶友会との合同新年会 4/9 定期総会・懇親会。
(資料有3-09)
・宮城：11/21 総会JALシティ仙台。(資料有3-14)
・福島：資料報告。(資料有3-15)
・静岡：HPを開設。慶友会との交流有り。(資料有3-19)
・群馬：会員数が増えないのが問題点。(資料有3-22)
加納名誉会長のご尽力で全国幹事会の会場をよりよい場所
での開催をお願いしたい。
→加納名誉会長：約束はできないが、努力するとの回答有り。
・石川：今年度春期幹事会のホストを務め、参加会員を全国通
信三田会に勧誘。11/17~18 日本一の旅館「加賀屋に集
う会」と七尾周辺観光。(資料有3-23)
・福井：11/29 福井市で忘年交流会。(資料有3-24)
・京滋：11/1 幾松にて「介護・認知症にならないために」赤岡
光雄君講演。2月「都鳥の会」開催予定。(資料有3-27)
・岡山：年3回の例会を行っている。(資料有3-29)
・広島：新規会員減少、既会員高齢化、三田会行事参加減少。
2月小旅行と交流会(県東部会員・尾道倶楽部)(資料有3-32)
・山陰：11月上旬秋の研修会「出雲花の郷」昼食。(資料有
3-33)
・山口：12/20 大島でみかん狩り。参加人員減少、慶友会解
散、役員会開催場所を持ち回りで開催。(資料有3-34)
・徳島：1/24 新年会ホテルグランドパレス徳島にて。
4/24 中・四国合同通信三田会高松大会。(資料有3-38)
・福岡：欠席、資料のみ。(資料有3-40)
・熊本：田口会長が連合三田会より卒業50年記念に招待され
た。1月に慶早OB新年会。(資料有3-41)
・長崎：2/7 第19回総会と新年会。
慶友会のバックアップをしている。(資料有3-43)

6. 次期会長・役員人事

- ・山岡会長(留任)・阿部副会長(新任)・他役員は留任、任期2年。
・新役員名簿にて出席状況を精査のうえ幹事会のメンバーを確
認する。

7. 山岡新会長ご挨拶 仲間を増やし、慶應を卒業して良かったという三田会を目指す。

<記念撮影>
(休憩 15分)

III 記念講演会：講師：菅沼安嬉子先生
「正しく食べて健康に生きよう」(15:30~)。※6面へ

IV 塾の近況：嶋崎元章塾員センター部長・基金室長 (16:45~)。

- V 懇親会：三田北館1階会議室(17:30~)。5,000円/人
・大石裕教授へ10/1 法学部長にご就任のお祝いのお花束を贈呈
ほか。

◇閉会◇

VI 2015慶應連合三田会大会

- ・日時：10/25(日)9:00~ 場所：日吉にて開催。
・地元神奈川通信三田会でたまり場を準備。
雨天時は高校208番教室。

第7回 北関東合同通信三田会
2015年9月27日 in 栃木

最初の訪問

(栃木通信三田会
編集長 大出 知広 記)

※菅沼安嬉子先生ご講演記録



秋期幹事会の記念講演会では、医師の菅沼
安嬉子先生(菅沼三田診療所副院長 慶應
義塾医学部三四会副会長 連合三田会理事)
をお迎えし、「『正しく食べて健康に生きよう』
という演題のもと、貴重なご講演をいた
だいた。終始笑顔を決りきり、分かり
やすく熱意あふれるご講演の要旨をお伝え
したい。(星野 寿美 記)

「日本は世界一の長寿国。平均寿命は
伸びたが、平均寿命より健康寿命が重要
である。今の医療は人の命を助けること
ができる。助かって元のように元気になる
れば良いが、障害が残ると辛いことになる。
重病を患う人だけでなく、家事や旅行が
出来なくなる人も健康寿命から外れる。
男性はこの差が9.1年、女性は12.4年
もあり、世界一の日本人女性は病んで
動けない年が10年以上もあることが問
題。元気で長生きするにはどうしたら
良いかが課題である。

日本人の死亡原因、1位はがん、2位
が心疾患、3位が脳血管疾患である。食
べ物で気を付けるべきは、まずは塩分。
血圧にもがんにも悪い。WHO(世界保

爽やかな秋晴れの下、栃木
通信三田会が主催する第7回
北関東合同通信三田会が開か
れました。茨



地・栃木県庁は、根本義夫当
会長の古巣! 根本会長が
案内人となって由緒ある昭和
庁舎(旧庁舎)を見学。次い
で、地上65mの新庁舎の展望
台ロビーから360度の眺望
を楽しんだ後、「ダイニング十
五家」にて地元食材を豊富に
利用した昼食を全員で召し上
がりました。
再び展望台に戻って記念撮
影をしたら、今度は、県庁内
の広場に移動してお互いに肩
を組み合せて「塾歌」と「若
き血」の熱唱! 三田会員と
しての一体感が高まります。
次の訪問地・栃木県立博物
館は、関和美当会副会長が司
書を務めている職場でもあり
ます。エントランスホールか
ら2階展示室に向うスロープ
には、日光国立公園の動植
物が展示され、約20分間にわ
たって解説員による説明を受
けました。続いて、自然、考古
歴史、民俗などの各展示室を
めいめいに自由閲覧し、従来
のイメージとは異なる栃木県
の姿を目の当たりにしたので

健機構)によれば、塩分1日6gが指標
だが、日本人には少し厳しい。ラーメン
1杯は6g、1日分が消費されてしまう。
梅干しは1個で2g、せんべいは2枚で
1g。うどんやそばは汁に塩分が多いの
で、汁を残すように。ところが、今年の
夏は暑くて熱中症で倒れる人もいた。塩
分を控えることが危険であった。大切な
ことは、内容を理解した食生活や日常生
活をすること。

塩分は血管を収縮し、血圧が上昇する。
逆に、野菜のカリウムが入ると、血管を
拡張し余分な塩分を排出、血圧が低下す
る。野菜は1日350g必要、1日3食、
1回分が手のひら1杯分程度。アンチエ
イジングにも、がん予防にもなる。菜の
花、ブロッコリー、カリフラワー、キャ
ベツ、大根など、アブラナ科の野菜は乳
がんにも良い。

血圧が高くなると、土石流のような勢
いで血液が流れ、脳の血管が切れる。切
れる寸前の血管内は、乱気流のように渦
を巻き、固まって詰まることもある。こ
れが脳梗塞である。また、高血圧は最初
のうちは痛くも痒くもないが、突然に倒
れる。逆に、血圧が低めで穏やかに流れ
ていれば、血管が長持ちをする。体には
血管が一番のライフラインである。

発がん性のあるカビには、ピーナツの
カビ、漬物のカビ、など。カビは表面だ
けでなく、根が生える。少しでもカビが
生えているものは食べない方が無難であ
る。そして、がん予防のお題目は「まご
は(わ)やさしい」「豆類」「ゴマ」「ワ
カメ」「野菜」「魚」「しいたけ」「イモ類」。
毎日の食事に取り入れましょう。それか
ら、糖尿と言われたら糖質を減らして運
動をするべきである。

食事のとり方は、朝はしっかり、昼は
ほどほどに、夜は少なめがベストである。
また、1日当り70~80gのタンパク
質も必要。タンパク質が不足すると、血
管がボロボロになってしまう。タンパク
質をあまり食べてはいけないのは痛風の
人だけで、それ以外の人は必ず摂取し、
その3倍の野菜を食べると良い。そして、
歯が悪くなると食べられなくなり、脳に
刺激が行かなくなる。ぼけ予防のためにも
よく噛みましょう。

人体は建物と同じ。骨は鉄筋コンク
リート、筋肉は壁、血管や神経はガス・
水道・電気の配管。生まれた時から、メ
ンテナンスが必要。動くだけで、骨にカル
シウムが行き渡り骨も丈夫になる。人
間の身体は細胞が壊れるから、修復する
のにタンパク質(アミノ酸)やビタミン
やミネラルを使って、様々な栄養素で、
造り直している。しっかりと食べ、身体
を動かすことが大切。また、日本人はカル
シウムが不足している。牛乳で1日
600ml必要、コップ1杯では200ml。
海藻類にも多いが、海藻、小魚は沢山食
べられないから、乳製品で補うのが良い。

最後に、いまサプリメントが全盛期だ
が、医者の方針する薬とは違う。医者が
処方する薬は、製薬会社は動物実験を
行って、人でも副作用を確認する。その
後、厚生省が認めると、保険適用になる。
そこまで約150億円も投資している。
しかし、サプリメントは自己責任で購入。
死んでも自己責任。医者から処方された
場合、被害に合うと、国が救済処置を講
ずることもある。テレビの宣伝は1千万
円もあればできる。サプリメントの効能
は良くわからないものもあり、リスクも
ある。」